2章 母なる川「最上川」

楯山公園からの眺望

1　未来に伝える山形の宝「最上川の文化的遺産」

コラム15
国選定重要文化的景観

「文化的景観」は、新しい考え方の文化財であり、「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの。」のことです。

（文化財保護法第２条第１項第５号）

文化的景観の中で、特に重要なものとして保護の措置が講じられているものが、都道府県又は市町村の申出に基づき、国の「重要文化的景観」に選定されます。山形県では、大江町の景観が選定されています。

（1）大江町の最上川の文化的景観が国の重要文化的景観に選定

山形県では、最上川を軸に、市町村とともに文化的景観保護事業を進めています。

2013（平成25）年、県内初の重要文化的景観として、大江町の「最上川の流通・往来及び左沢町場の景観」が選定されました。最上川舟運の河岸として発展してきた左沢には、最上川などの自然環境と、左沢楯山城跡や小漆川城跡が物語る政治的拠点としての歴史、そして舟運や農山村との流通・往来に根ざした生活・生業が結びついた、複合的で重層的な文化的景観が形成されています。

左沢の町場は、最上川舟運の中継地であり、町の西部に広がる農山村との活発な交流を背景として、月布川の河口に開けた集落でした。物資集散地という地域性に根ざした町の暮らしは、舟運安全が祈願された社寺や囃子屋台、旧家の佇まいなどからうかがうことができます。

楯山には国史跡左沢楯山城跡があります。城跡からの眺めは河川交通の要に立地していることがわかります。ここには、最上川舟唄碑が建てられており、楯山公園からの眺望は、最上川の景観を代表するものの一つとして知られています。

大江町の最上川では、「用のハゲ」や「左巻」、舟道開削跡など、舟運と関わる五百川渓谷の自然景観をみることができます。また、左沢の「百目木」や「旧最上橋」、民謡「最上川舟唄」など、川と暮らしが密接に関わって形成された風景や文化が継承されています。

（2）最上川の文化的資産50選と写真コンテスト受賞作品

【山形の宝「最上川の文化的資産50選」写真コンテスト受賞（最優秀賞、優秀賞、奨励賞）８点】

荒砥鉄橋（白鷹町）
（撮影：佐藤正信さん）

最上川三難所三ヶ瀬（村山市）
（撮影：樽石良一さん）

古口舟番所最上峡舟下り（戸沢村）
（撮影：三浦民雄さん）

角川合流点の眺め（戸沢村）
（撮影：奥山喜久雄さん）

眺海の森からの眺め（酒田市）
（撮影：佐藤維宥さん）

漁ろう用具　最上峡（戸沢村）
（撮影：鈴木一夫さん）

玉ノ井の眺め（朝日町）
（撮影：長岡京子さん）

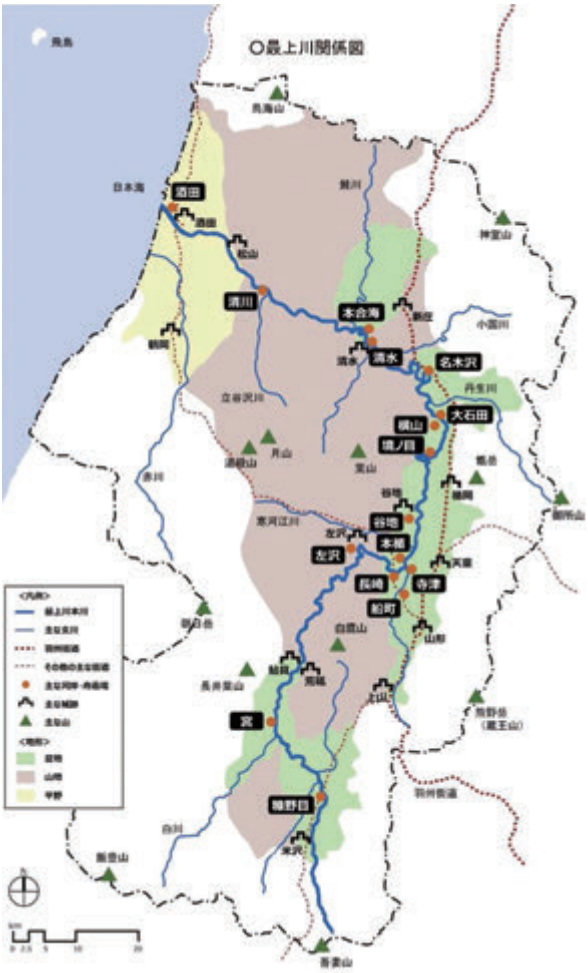
白鷹ヤナ公園あゆ茶屋（白鷹町）
（撮影：藤田正治さん）

舟運文化産業

青苧（あおそ）　紅花
最上川の川絵図
最上川水系の漁ろう用具
雛人形（ひな祭り）
最上川舟唄

The Mogami River flows through Yamagata Prefecture from south to north. It starts from Mt. Azuma in Yonezawa, and flows into the Sea of Japan in Sakata. Out of the rivers that flow from source to mouth within one prefecture, it is the longest in Japan. Along the river, we see many beautiful loandscapes and cultural scenery.

In 2012, Yamagata Prefecture took a vote from the citizens to decide on 50 cultural assets which they want to preserve for future generations. From among them, “transportation and shipping on the Mogami River and the landscape of Aterazawa” was designated the first nationally Important Cultural Landscape in Yamagata Prefecture.



最上川の主な河岸・船着場

碁点（村山市）

三ヶ瀬（村山市）

隼（村山市）

黒滝（白鷹町）

大石田河岸絵図（大石田町東町地区所蔵）

2 最上川舟運の発展を支えた人

コラム 16

舟運の安全祈願

この絵馬は大江町巨海院が所蔵している「小鵜飼船押絵絵馬」です。

最上川のいたるところに舟運の難所がありました。最上川を上り下りした船乗りたちは、流域の寺社へ熱心に安全祈願をし、船絵馬を納めました。

小鵜飼船押絵絵馬（大江町巨海院所蔵）

（1）三難所「碁点・三ヶ瀬・隼」（村山市）を開削した最上義光

最上義光

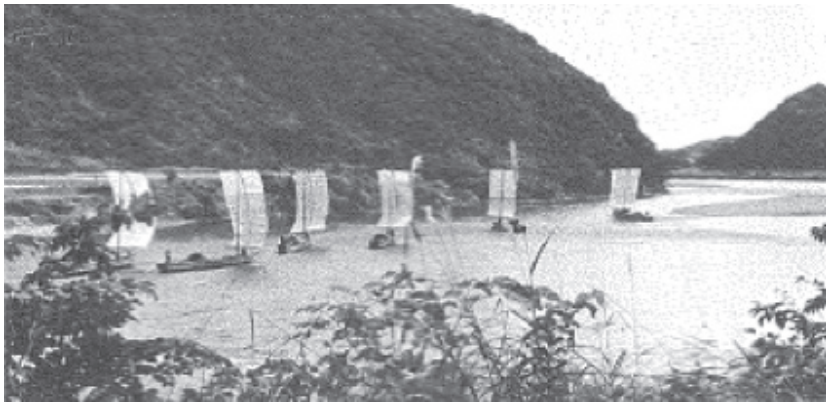
道路が現在のように整備されていなかった時代、最上川は便利な交通手段として活用されていました。また、人口の集中している都・江戸の穀倉地帯とされていた東北から、年貢米を輸送する交通路としての役割もありました。この最上川の重要性に注目したのが山形城主最上義光でした。義光は商業の流通を促進するために、舟運に力を入れていました。特に、最上川の三難所と言われている「碁点・三ヶ瀬・隼」では、大掛かりな工事によって開削を推進し、最上川の舟運をさらに発展させました。

これにより村山地方だけでなく、内陸地方に産出する物産の多くが酒田港に運ばれるようになり、大石田及び酒田は、商業都市として発展を遂げました。

（2）自費を投じて黒滝（白鷹町）を開削した西村久左衛門

最上川の舟運を語る上で、米沢藩京都御用商人・西村久左衛門を欠かすことはできません。最上義光が山形から酒田までの舟運を整備しました。一方で、西村は、米沢から左沢までの最上川上流の舟運を整備しました。彼は、米の輸送に苦労している米沢藩に対して、松川で船が通れない黒滝の難所を開削すれば、米沢から酒田までの水路が開け、物流が盛んになり、藩の利益は莫大なものになると申し出ましたが、財政難を理由に断られ、結局、独力（自費１万７千両）で河川整備を行いました。この水路の誕生によって、直接舟で物資の輸出入ができるようになり、米沢藩の経済や文化が大きく発展しました。

「六十余州名所図会　出羽　月山最上川遠望」
初代歌川広重（広重美術館所蔵）



◇舟運で賑わう最上川　山の内を通る小鵜飼船　1925(大正14)年(長井政太郎著 山形県交通史より)

最上川舟運を支えた船

弁財船（模型）
（酒田市立資料館所蔵）

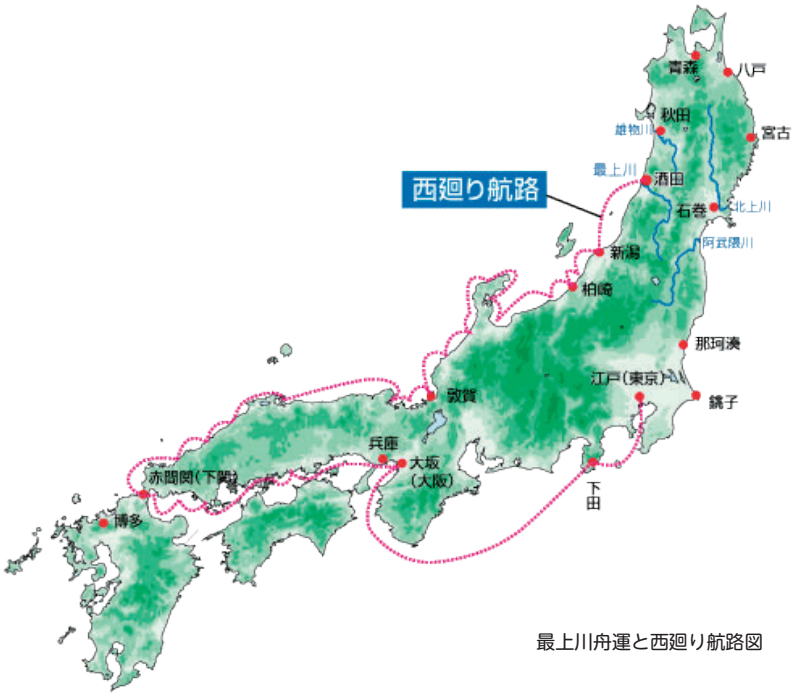
ひらた船（模型）
（県郷土館「文翔館」所蔵）

小鵜飼船（模型）
（県立博物館所蔵）

（3）大阪・江戸に向かう西廻り航路の整備をした河村瑞賢

河村瑞賢

最上川の舟運が発達した一つの原因として、河村瑞賢（かわむらずいけん）による西廻り航路の刷新は忘れることができません。江戸経済が安定してくるにつれ、人口が増加し、主食である米の不足がクローズアップされてきました。そこで米どころの多い日本海を通る航路を整備するため、幕府の御用商人である瑞賢が派遣されました。瑞賢は苦心の末、酒田から下関経由の日本海西廻り航路を確立し、最上川を通して運ばれた物資を、安全に江戸に回送することに成功しました。これにより酒田は、日本海航路上重要な拠点として繁栄をみせ、湊町としての賑わいは井原西鶴の「日本永代蔵」で「西の堺、東の酒田」と並んで称されるほどになりました。



最上川舟運と西廻り航路図

Long ago, roads were not as good as those of today. For Yamagata, because it is surrounded by mountains, the Mogami River was the only useful means of transportation. However, the river flows fast in some places, and in others it was too shallow and rocky for rafts to go. There were two people who made efforts to change such dangerous areas into safer places for rafts.

One was Mogami Yoshiaki, lord of Yamagata Castle. He conducted large-scale improvement projects for three dangerous places on the Mogami River: Goten, Mikanose, and Hayabusa. Thanks to his efforts, rafts were then able to pass through these areas easily. The other was Nishimura Kyuzaemon, *goyo-shonin* (trader to the government)for Yonezawa Domain. He put a lot of his own money into river improvement at Kurotaki, Shirataka, to make it passable by raft.

Kawamura Zuiken, the *goyo-shonin* given special powers and sent to Sakata by the Tokugawa Bakufu (the shogunate), opened up the westward shipping route, which went from Sakata to Edo via Shimonoseki.

紅花文化を伝える「紅花屏風」「左」（北前船　京都紅花問屋　取引の様子）㊝長谷川家寄贈・山寺芭蕉記念館所蔵

3 最上川が育んだ鮮やかな世界「紅の国」

コラム 17

べにばな国体で披露された振袖

1992（平成４）年第47回国民体育大会（べにばな国体）の会場は秋にもかかわらず咲き誇る紅花に囲まれました。

表彰式では、紅花で鮮やかに染め上げられた振袖をまとった女性たちがプレゼンターとして華を添えました。

べにばな国体表彰式でプレゼンターが着た紅花染めの振袖（河北町紅花資料館）

（1）紅花屏風絵に見える紅花産業

江戸初期から栽培された山形の紅花は、「最上紅花」として京西陣の染織物に歓迎されました。上の絵は、山形の特産物であった紅花の生産のありさまを描き、その取引、運送に至るまでを一双の屏風にまとめたものです。屏風の右には、春の農家の庭先に始まり、花摘み、花団子干しまでの作業の様子が描かれ、左には問屋の荷造り、船の敦賀港入り、京都の店先までが描かれています。

右の一番右端の絵は、農家ののどかな庭先の風景で紅花の豊作を祈る意味が込められていると考えられます。満開の桜のもとで、農夫が出て、それぞれ整地や種まきの作業をしています。畦の近くには、一休み中の女性が幼児を抱いて乳を飲ませており、若い娘子がかいがいしく立ち回っています。川の上流はるか遠方の畑では、花摘み乙女たちの笠が朝日に映えて美しく散らばっています。屏風絵はいよいよ佳境に入り、右の左端は紅餅製造の場面を描いています。老若男女およそ20数名が、それぞれの持ち場を使って、いきいきと働いています。

左の屏風絵を見ると、まず、紅花問屋の庭の広場で、大人の男たちが、紅餅発送のための荷造りを行っています。かっぷくのいい旦那が、縁側に腰掛け仕事の指示をしています。この紅餅は大石田まで陸送しそこから最上川を舟で下り、酒田港で大船に積み替え、敦賀に入り京都へ輸送されました。屏風絵中央には、屋号を印した紅花問屋の船が見えます。

船の荷は敦賀の荷問屋の手を通じて、馬の背に移り、琵琶湖の北岸に運ばれ、塩津や大津を通って京都の紅花問屋に向かいます。運ばれてきた荷物は、車や馬からおろされ、店頭の左右に積まれています。店は下座敷と二階座敷があり、多くの人が集まって商談が行われました。帰りには、衣料、砂糖や塩、上方産の雑貨類などを仕入れて敦賀から酒田へ、最上川を上って内陸に戻りました。

紅花畑

加工された紅花

「紅花屏風」「右」（春の種まき・花摘み・紅餅ができるまでの工程）㊝長谷川家寄贈・山寺芭蕉記念館所蔵

（2）川が運んだ文化～上方文化との交流～

最上川舟運の発展により上方（京都・大阪）と交流も盛んになりました。山形の内陸からは、上方に向けて、紅花、米、大豆、青苧、煙草などが積み出され、帰りの舟では、塩、魚、茶、古着、雛人形、仏像、石灯籠など上方の物産を積んできました。

今でも、紅花の里として有名な河北町の国指定重要無形民俗文化財「林家舞楽」の衣装や、鶴岡市櫛引地区で奉納される国指定重要無形民俗文化財「黒川能」の衣装に艶やかな紅花染めを見ることができます。

林家舞楽（国指定重要無形民俗文化財）
（河北町谷地どんが祭り）

紅花が京都へ送られる一方、京都からもたらされた文化も数多くあり、その中の一つに、河北町をはじめ最上川流域に残る「雛人形」があります。享保雛、有職雛、立ち雛など、みごとな京の雛人形が旧家に代々伝えられ、今でも、毎年春に一般公開されています。

Benibana (safflower) is the flower of Yamagata Prefecture and beloved by people in Yamagata. The quality of *benibana* grown in Yamagata was excellent, and thus it was highly valued throughout Japan. In summer, farmers picked the petals of *benibana* and pounded them into *benimochi*, a kind of small cake of pounded petals. *Benimochi* were shipped out down the Mogami River to Sakata, then carried to Kyoto across the Sea of Japan. The ships came back to Sakata carrying salt, fish, tea, secondhand clothes, *hina* dolls, Buddhist statues, stone lanterns, and more. *Hina* dolls are one of the most famous products of Kyoto culture and we can still find them in many places around Yamagata. Lip rouge made from *benimochi* was also brought to Yamagata from Kyoto.

Kimono dyed with *benibana* shine brightly. The costumes for “Kurokawa Noh” in Tsuruoka City and “Hayashi-ke Bugaku” in Kahoku Town are also dyed with *benibana*. When the National Athletic Meet was held in Yamagata in 1992, presenters wore *kimono* dyed with *benibana* for the award ceremonies.